

街中がんサロン「ちっこ」の立ち上げ

～筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会の実践報告～

筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会

地方独立行政法人 大牟田市立病院

○MSW 北嶋晴彦 MSW 山本亜矢子

キーワード：がんサロン 地域がん診療連携拠点病院 相談支援センター

1. はじめに

がんは、昭和 56 年以降、日本人の死亡原因の第 1 位である。日本のがん対策は、昭和 59 年度からの「対がん 10 ヶ年総合戦略」をはじめ、様々な政策が打ち出された歴史がある。平成 18 年 6 月には議員立法としてがん対策基本法が制定され、平成 19 年 6 月にがん対策の具体的な目標を定めたがん対策推進基本計画が策定された。がん対策推進基本計画では、がん医療に関する相談支援・情報提供を行う相談支援センターを、すべての二次医療圏に設置することが明記されている。また、相談支援センターの相談員に関する記述として「相談支援に関し（中略）患者団体等との連携について検討する」「がん患者や家族等が、心の悩みや体験等を語り合うことにより、不安が解消された、安心感につながったという例もあることから、こうした場を自主的に提供している活動を促進していくための検討を行う」とある。

以上の経過を踏まえ、患者や家族が自由に語り合える場として、街中がんサロンの立ち上げを行った。企画は、筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会（注 1：福岡県筑後地区にある 4 つの地域がん診療連携拠点病院の相談支援センター）である。全国にがんサロンや患者会は多く存在する。しかし、その殆どは、主体となる医療機関にかかわる患者や家族が、その施設内を中心として活動している場合が多い。本実践の特徴は、4 つの医療機関が共同し、街中にがんサロンを新規に立ち上げた事が挙げられる。今回の発表は、実践を通して得た、がんサロンの立ち上げに必要な視点や活動直後の評価について報告を行う。

2. 街中がんサロンの紹介

名称：「がんサロンちっこ」

※「ちっこ」とは方言で福岡県筑後（地区）を示す。

目的：がん患者やその家族等に相談交流できる場を設け、参加者同士で情報交換を行い、悩みや不安を取り除くことで生活の質の向上に寄与することを目的とする。

開催日：毎月第 2 土曜 14：00～16：00

第 1 回開催 2010 年 10 月 9 日（土）

場所：くるめりあ六ツ門（ショッピングモール 6 階／福岡県久留米市の中心街）

対象者：がん患者および家族

参加ルール：やっではないけないことを規定。

たとえば、プライバシーの侵害など

主な内容：ミニ講演（30 分）、茶話会（90 分）

評価：開催毎に参加者へアンケートを取り、活動評価や今後の課題を得る。

運営費（平成 21 年度）：2 万円

（5000 円／各医療機関の拠出）

広報：行政機関（市役所・保健所など）への案内を積極的におこなった。久留米市役所の後援を受け、久留米市広報誌（2010 年 9 月 15 日号）に掲載。

その他：会社等からの寄付についても検討中。

3. 活動実績と今後の課題

患者アンケートの結果、活動継続の課題等は発表時に報告する。

注 1：

筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会

代表 峯 孝志（久留米大学病院 医師）

副代表 榎谷明美（聖マリア病院 看護師）

地方独立行政法人 大牟田市立病院

久留米大学病院

公立八女総合病院

社会医療法人 聖マリア病院